

ある原子力発電所の原子炉では水蒸気を 285 度Cに熱し、冷却水の温度が 40 度Cであるとする。

1. この原子炉の理論的な熱効率 (効率の上限) はいくらか計算せよ。
2. この発電所が 1000 MW ($1 \text{ MW} \equiv 10^6 \text{ W}$) の電力を生産するとき、実際の熱効率が 35% であるとする。理想的な場合に比べた仕事率の損失は何 W か。
3. この発電所の低熱源として、平均流量が $4 \times 10^4 \text{ kg/s}$ の川の水を利用しているとき、水温はいくら上昇することになるか。

(解答例)

1. 理論的な熱効率はカルノーサイクルの効率であるから、

$$\eta = 1 - \frac{T_C}{T_H} = 1 - \frac{40 + 273}{285 + 273} = 0.44. \quad (1)$$

2. (熱出力) $\times$ (熱効率) = (電気出力) と考えると、(熱出力) = $1000 \text{ MW} / 0.35 = 2857 \text{ MW}$ となる。したがって仕事率の損失は (仕事率の損失) = $2857 \text{ MW} \times 0.44 - 1000 \text{ MW} = 257 \text{ MW}$ 。
3. 前問より、排熱は仕事率で考えて、

$$2857 \text{ MW} - 1000 \text{ MW} = 1857 \text{ MW} \quad (2)$$

である。質量 m の温度上昇 ΔT に対して、必要な熱量 Q は

$$Q = cm\Delta T \quad (3)$$

であるから、時間変化率 $dQ/dt, dm/dt$ を考えると

$$\left(\frac{dQ}{dt}\right) = c\left(\frac{dm}{dt}\right)\Delta T \quad (4)$$

となる。水の比熱 $c = 4.1816 \text{ J}/(\text{K} \cdot \text{g}) = 1(\text{cal}/\text{K} \cdot \text{g})$ であるから、したがって温度上昇 ΔT は

$$\begin{aligned} \Delta T &= \frac{\left(\frac{dQ}{dt}\right)}{c\left(\frac{dm}{dt}\right)} = \frac{1857 \times 10^6 \text{ Js}^{-1}}{1 \text{ cal} \cdot \text{K}^{-1} \text{g}^{-1} \times (3 \times 10^4 \times 10^3 \text{ gs}^{-1})} \\ &= \frac{1857 \times 10^6 \text{ Js}^{-1}}{4.18 \text{ J} \cdot \text{K}^{-1} \text{g}^{-1} \times (4 \times 10^4 \times 10^3 \text{ gs}^{-1})} \\ &= 10.95 \end{aligned} \quad (5)$$

(備考: 水の比熱は約 $1 [\text{cal}/\text{K}/\text{g}]$ となり、きりがよく覚えやすいが、これは常圧で 1 g の水を 1 K 上げるのに必要な熱量を 1 cal と決めた歴史的経緯による。